



1958-1964

個性豊か? わがまま? 問題の多かった21期



中三の時、市内大会で優勝したのち京都の紫野高校で行われた三都市の試合前の写真。

本山中を下し初優勝

私達21期生は、20期の石坪・宇川・大頭をはじめとする諸先輩方の指導よろしきを得、22期の宇川・辻・三宅君達と汗と涙を流した。

20・21期で当時常勝中の宿敵であった本山中を倒した思い出。

いま、はっきりとした記憶はないが、確か中学生の市大会で本山中を下し初優勝することが出来、神戸新聞に小さく掲載されたことをよく憶えている。私達は20・21期での思い出よりも21・22期でのチーム構成での思い出の方が多い。

当時としてはサッカー部のあった学校が少なかったせいもあるが、戦績としては良かったように思う。

私達21期は個性が良きにつけ悪しきにつけても強かったことも手伝って、チーム内でゴタゴタが続き高校時代は殆んど休眠状態で佃先生にはもちろんのこと、先輩、後輩に大変迷惑をかけた。私のリーダーシップの無さに起因すること大で、反省している。

部練の来ない同級生を呼ぶために練習どころか家に迎えに行くといったことが数回あった。遠い所では片道1時間半かかった。結局、今おもえば若気のいたりで非常に残念なことをしたと思う。

佃先生には色々ご指導して頂きながら最後までそれに応えることが出来なかったこと申し訳なく思っています。

(上記写真の説明)

試合は、大阪の中学校と戦い、3対3の引分けであったが、内容は2PKを取りながら、栗田と私が二人そろってゴールをはずすといった悔しい思い出の試合である。

ゲーム後の写真ならこんな楽しい顔を佃先生も我々もしてなかった筈である。

[村上 良隆]

